

1人目

〈受験回数〉一回目

〈生まれた年〉1987 年

〈性別〉男

〈略歴〉京都大学大学院薬学研究科修士課程修了(生物・薬理系)

〈併願校〉なし

〈得点〉

物理 63 化学 60 英語 80 生命科学 82

一次 285

二次 54.2

総合 339.2

〈勉強方法〉

○全般…予備校の有無、勉強方法、勉強時間など

冬に KALS のガイダンスに行きました。無料ですし、編入制度について色々分かるので良かったと思います。

KALS の授業は生命科学の講座をとりましたが、自分には合わなくて 3 回ほどしか行きませんでした。

3 月までは研究発表との並行であまり勉強がはかどりませんでした。4 月から家に引きこもって勉強しました。1 日 6~12 時間ぐらいです。定期的に気分転換をするようにしていました。

○各科目…使用参考書・特有の勉強法など

●英語

単語帳

大丈夫だろうと舐めていましたが本番で分量が多くて焦りました。

他の科目の勉強を優先して対策しないまま臨んでしまいましたが、このような受験生も多いと思います。配点は 150 点もあるので読解と答案完成の時間配分の練習をある程度すべきかと思います。

●生命科学

・分子細胞生物学(朝倉書店)

記述が阪大入試向けな気がします。かなり薄いので読みやすいと思います。

- ・医歯薬系学生のための illustrated 基礎生命科学

導入におすすめです。あと、薄い割には Xist (2010 年入試出題) 等が載ってたりします。

- ・生化学 分子生物学演習 (東京化学同人)

用語や知識の確認に使えます。細か過ぎる箇所もあるので全部やらなくてもいいはずです。

- ・NEW 薬理学 (南江堂)

病態や個々の薬物は要らないと思いますが、生理の記述が読みやすく使えると思います。

- ・KALS 生命科学テキスト

色んな分野の詰め込みです。知識の確認に良いと思います。

- ・新書 医の未来

生命科学、医療分野の話題について記述できるように一度整理しておけばいいかと思います。二次対策にも。

●物理

- ・新体系物理

解説の発展的内容まで読めばいいかと思います。

●化学

- ・量子化学 演習による基本の理解 (東京化学同人)

例題ばかりなのでやりやすいです。巻末の演習の類題が過去に阪大で出題されていたと思います。

〈小論文・面接〉

一次試験後に対策開始しました。河合出版の大学受験用の参考書を読みました。

○面接…聞かれた内容

志望理由

大学での研究内容

臨床 or 研究

臨床では何科に行きたいか

希望する科ではどのような病気の患者さんが多いか知っているか

薬剤師免許の有無

希望する診療科の病棟の様子を見たことがあるか

部活について

部活でどのように他の部員を引っ張っていったか

アルバイトについて

アルバイト仲間で仕事について意見の対立があった場合にどのように解決したか

小論文の内容について

〈滞在したホテル〉

自宅から。早めに家を出て千里中央で時間をつぶしてました。

〈なぜ阪大か〉

家から通えるので。

〈採点への印象〉

妥当な採点基準だと思います。

あと、化学は解答欄が広いのでわからなくても何か書いとけばいいんじゃないでしょうか。

〈学士入学全般について思うこと〉

良い制度だと思うので今後も続いたらいいなと思います。

受験生の半分以上(?)はちゃんと準備せずに来ていると思います。倍率に惑わされないことが大切です。

〈入学後、思うこと〉

他を受けなかったのが合格して本当に良かったです。毎日同じ教室で授業を受けたり実習するので、雰囲気は大学よりも高校に近い感じがします。

〈受験生へのメッセージ〉

一次試験の一教科目は緊張すると思いますが、雰囲気にのまれないように頑張って実力を発揮して下さい。特に計算などは要注意かと思います。

二次試験は面接官が多少怖そうでも、小さくならず笑顔で堂々としていればいいかと思います。

2人目

〈受験回数〉 1 回目
〈生年月日〉 1978
〈性別〉 男
〈略歴〉 京都博士過程（物理）→ 研究職（～2011/3）
〈併願校〉
筆記落第 山口
筆記合格、最終落ち 滋賀、大分
筆記合格、最終辞退 弘前、鹿児島、北海道
最終合格 福井、大阪

〈得点〉
英語：108 生命科学：59 物理：100 化学：64
一次試験：331 二次試験：45.9 合計：376.9

年齢 30 台前半

経歴 京都博士（物理）→ 研究教育職（～2011/3）

3 月後半に当時の職の任期切れが近づいて危機感を感じ、医学部学士編入の情報と過去問収集を開始しました。3 月末で任期切れ退職後、4 月にいろいろ思うところがあって医学の道を志し、医学部学士編入に向け勉強開始しました。時間はなかったので予備校は行っていません。日程的に無理がない範囲でできるだけ多くの大学を受験するように考え、最終的に 8 校受けました

受験結果
筆記落第 山口
筆記合格、最終落ち 滋賀、大分
筆記合格、最終辞退 弘前、鹿児島、北海道
最終合格 福井、大阪

勉強法

勉強時間は生命科学 8 割強、化学と英語各 1 割弱です。

だいたい 1 日 12 時間、週 6 日ぐらいのペースで勉強して、毎朝のウォーキングだけは欠かさないようにしました。

生命科学

収集した過去問+「医学部編入への 生命科学演習」から細胞&分子生物学、生理学が中心と判断して、教科書に沿ってきっちり勉強しました。遺伝、免疫は advanced な範囲は出ないと判断して「医学部編入への 生命科学演習」の範囲を教科書で掘り下げました。生化学は近年ほとんど出題されてないので手抜きして、糖、核酸、タンパク、解糖系と TCA 回路だけ勉強しました。高校生物特有の植物とかウニの発生とかは捨てました。

勉強法としては、参考書を PC でノートにまとめ、ひたすら記憶しました。問題演習は一切していません。

物理

大阪大の試験直前に力学、電磁気、熱力学等の公式を黄色い本@サイエンス社などからリストアップし覚えなおしました。

化学

化学平衡と物理化学と有機のみにヤマを張って勉強しました。あちこちで頻出の化学平衡関係（平衡定数、pH、酵素反応速度、酸化還元とか）は新研究で勉強しました。物理化学は黄色い本の章頭解説+例題だけを暗記しました。有機は黄色い本の反応パターンと SN1、SN2 だけ暗記しました。阪大に関しては有機反応穴埋めは必出なので、反応パターンは丸覚えして損はないと思います。余談ですが、pH の計算問題は 4 校ででした。

英語

英語はとにかく単語力なので nature blog や参考書などを読む → 単語抜出 → 単語帳作成の繰り返しで単語を覚えました。

面接&小論

面接で聞かれそうな質問をリストアップして答えを用意しておき、参考書の題材についても解答例を参考に自力で数百字くらい書いておきました。

特に役立った参考書

生命科学総合

NEW 鞠子医・歯・薬・獣生物講義の実況中継（1～3）（最低限範囲の大枠がまとまってる良書）

医学部編入への生命科学演習 （共通過去問的存在：勉強すべき範囲がよくわ

かる)

細胞、分子

エッセンシャル細胞生物学 (アポトーシスとかが弱い)

第三版 分子生物学[丸善、田沼靖一編著] (上の補完になる良書)

生理学など

スタンダード生理学 (神経関係は弱いけど)

ビジュアル生理学 (ネット)

慶応大医学部解剖学教室様のサイト (ネット)

遺伝、免疫、生化学

遺伝学キーノート

免疫学最新イラストレイテッド

基礎の生化学

物理&化学

医歯系の物理学

サイエンス社の黄色い物理院試過去問集 I&II

化学 I・II の新研究 (三省堂) 特に 2、3、5 章

サイエンス社の黄色い物理化学、有機化学

英語

合格する!医歯薬への英語

nature news blog 及び nature digest (ネット)

scientific american (ネット)

エッセンシャルの巻末用語集

阪大の過去問

小論&面接

小論文面接の時事ネタ本

2010 阪大頒布会のアンケート (ネット)

その他

某学士編入まとめサイト (ネット)

Wikipedia (調べものに便利)

感想

英語は例年通り分量が多く、時間ぎりぎりでした。物理は専門だったんで問題なしです。化学は知識を要する論述が少なく計算問題が多く、生物は分子生物学のディープな長文論述が減った分楽でした。面接はあっさり風味ですぐに終わりました。合計 100 点あれば御の字と思っていた化学や生物で思ったよりかなり点を稼げました。大阪大学の編入試験は物理的分野（物理+物理化学）だけで理科の半分を占めるので、物理屋や工学屋の方にとってはかなり有利だと思います。

勉強に関しては上に述べたとおりですが、どうしても情報がネックになります。私の場合ネット上の情報がかなり役に立ちました。特に過去問はかなりの分がネットから入手できます。あと、癌と糖尿病と前年のノーベル賞の対象に関してはかなり突っ込んで調べておいた方がいいと思います。

さいごに

入学して感じたことですが、どの先生も講義に力を入れておられて、専門分野がらみの話も聞けて非常に有意義かつ面白いです。入学してよかったと思います。

唐の詩人杜牧が「十年一覚揚州夢」とうたったように大学卒業後物理の研究の道に進んでからの 10 年はあっという間で楽しい思い出でいっぱいです。その経験を生かしてこれから医学の道にまい進していきたいと思っています。最後に個人的に好きな杜牧の詩を引用してこの手記を締めくくりたいと思います。

遣懷 杜牧
落魂江湖載酒行
楚腰腸斷掌中輕
十年一覺揚州夢
贏得青樓薄倖名

3人目

<受験回数>1回

<生まれた年>1983

<性別>女

<略歴>東京大学教養学部基礎科学科卒業

米国某大学院生理学修士課程卒業

米国国立衛生研究所勤務 2年

<併願校>東京医科歯科大学 北海道大学 一次試験不合格

<得点>物理学 65 化学 55 英語 106 生命科学 57 一次試験成績
283

面接（小論文を含む） 83.4 最終成績 366.4

成績順位 一次 4位、二次 2位

<勉強方法>

全般

時間は有限ですので、過去問を分析して重点的に問われている分野を中心に勉強すると良いと思います。基礎的な理解や演習を完璧にし、難しいものは受験生全体に対しても難しいので、後で出会ったらまたやるという気持ちでやるよう心がけました。計画は現実的になものにし、適宜リフレッシュしながら毎日ある範囲をマスターすることを目指しました。

各科目

物理・・・基礎物理学演習のⅠ、Ⅱを主に用いて勉強しましたが、結局は要点が入っていれば自分の使いやすい問題集でよいと思います。

化学・・・最初は演習物理化学、演習有機化学等を用いましたが、結局細かすぎて途中から図書館で借りてきた本で勉強しました。過去問を中心にやると良いです。

英語・・・英語は論文や雑誌からの記事などが多いので、出典元の雑誌などを読むようにしました。生命科学系、医学系研究に関する単語を知っておくと有利だと思います。

生命科学・・・予備校の本を参考に、自分の言葉で重要項目を説明できるようにしました。息抜きとして読んだ、分子生物学講義実況中継はとても面白かったです。

<小論文・面接>

小論文・・・医学部対策の小論文の本や、図書館で興味を持った医療関係の本を手当たり次第読み、自分の言葉で纏め、自分の意見を言えるよう準備しました。

面接・・・医学部に行きたい理由をロジカルに分析し、それを熱意を持って素直に伝えればよいと思います。沢山練習することがコツです。

＜なぜ阪大か＞阪大の研究に興味があり、臨床レベルも高いので、将来どちらに進むにしても非常に良い教育が得られると思いました。

＜採点への印象＞思ったより低かったが、全力を尽くせばそれで良いと思います。

＜学士入学全般について思うこと＞医師の中に様々なバックグラウンドをもつ人がいるのは非常に良いことだと思います。学際的な研究をする人がもっと増えると良いと思います。

＜入学後、思うこと＞非常にペースが速く、こなす量も多いがとても充実しています。研究室見学も歓迎されるし、学士の先輩たちとも交流できるので、とても楽しいです。

＜受験生へのメッセージ＞勉強もさることながら、確実性が低い試験だけに精神的な負担は大きいと思います。努力は必ず報われると思うので、自分に合った息抜きの仕方を見つけてがんばってください。きっと楽しい学生生活が待っていることだと思います。

4人目

＜受験回数＞1回

＜生まれた年＞1984

＜性別＞女

＜略歴＞京都大学理学部理学科卒業

京都大学生命科学研究科修士課程卒業

某メーカー勤務 2年

＜併願校＞滋賀県立医大 一次試験不合格

＜得点＞物理学 54 化学 50 英語 101 生命科学 67 一次試験成績
272

面接（小論文を含む） 70.8 最終成績 342.8

成績順位 一次 7位、二次 4位

＜勉強方法＞

全般

受験を決意したのが1月で、4月までは働いていたためとにかく時間がなく、5月くらいまでは予備校のカリキュラムをこなすことに全力をかけました。これだけで英語と生命科学に関してはかなりまかなえたと思います。その後、阪大を意識するようになって頒布会を知り、慌てて物理と化学の対策をしました。

各科目

物理・・・時間がなかったので、過去問を4年分ほど解き、忘れていた公式などは大学受験用の問題集で軽く復習することくらいしかできませんでした。

化学・・・全く出来なかったので、過去問の分からないところを調べたのと、サイエンス社の有機化学演習を繰り返して丸暗記しました。おかげで有機化学はある程度対応できましたが、その他の範囲は全くできませんでした。

英語・・・予備校の授業をこなすので精一杯でしたが、授業については予習復習を欠かさないよう努力しました。過去問をさらりとしか確認していなかったため、本番で3問目があることに気づかないという失敗をしたので、過去問を確認するのはやはり基本だと思います。

生命科学・・・予備校の教科書をとにかく解き続けました。4周くらいしました。阪大受験前には過去問と、カルスの阪大模試の過去問を何度も解きました。阪大模試の過去問はすごくよかったです。

＜小論文・面接＞

小論文・・・小論文の内容は、「日本の医療は、カテーテルなど繊細な技術を要する分野ではトップだが、遠隔医療技術などの革新的な薬剤、医療技術の開発はほとんどが欧米でなされており、高額な医療費が海外の企業の利益として流出している。日本が医学（知財の育成、実用化を含め）のトップになるために何が必要か提案してください。」

というような感じでした。勉強方法は、小論文の書き方そのものに相当不安があったので、医学部対策の小論文の本とカルスの添削で練習しました。阪大の小論文は他と少し聞かれる内容も違うので、頒布会で過去の試験の内容を見て、自分ならどう答えるか考えていました。

面接・・・聞かれた内容は以下の通りですが、これまでの進路から医学部編入へと方向転換する理由を論理的に説明できればよいと思います。

- ・ 志望動機、なぜ阪大か
 - ・ (研究したいと言ったので) なぜ医師になる必要があるのか
 - ・ 会社ではどんな仕事をしていたか
 - ・ 修論の内容、成果

- ・ 学生時代一番がんばったこと
- ・ 臨床に行く気はないのか
- ・ 家族とどんな話をするか

〈なぜ阪大か〉研究がしたいと思っていたのと、自宅から通えることから阪大が第一選択でした。

〈採点への印象〉英語は丁寧に解答すれば得点できるような気がします。

〈学士入学全般について思うこと〉過去問や大学の特色などからある程度自分に合いそうな大学を選択して、しぼって対策を立てたほうがいいように思います。受験できるところはいろいろとありますが、実際今年の合格者を見ても阪大にしぼって受験した人が多くいましたし、私自身他の大学を受けても受かる気がします。合う、合わないが一般入試よりも強いと思います。

〈入学後、思うこと〉自分の学部時代を思うと大学生にしてはかなり忙しく、医師になるのは大変だと実感していますが、授業や研究室見学などで先生のお話をお聞きしているととても面白いです。興味深い研究をされている先生が多く、阪大に来ることができてよかったと改めて感じました。

〈受験生へのメッセージ〉私自身退職してからの受験で、落ちたときのことを考えるととても不安でしたが、阪大受験を考え始めてからは阪大以外考えられないと思うようになり、とにかく阪大受験に全力を注ぎました。学士編入は人生において大きな方向転換ですしリスクも大きいですが、それだけの意志を持っているかを問われる試験のような気もします。合格よりもその先に固い目標を持っている人ならばきっと報われると思います。これまで頑張ってきた自分を信じて、あと少し頑張ってください。

5人目

〈受験回数〉2回

〈生まれた年〉1974 年

〈性別〉男

〈略歴〉 東京大学工学部、工学系研究科修士卒、その後民間企業で勤務

〈併願校〉浜松(最終×)、岡山(1次×)、滋賀(最終×)

〈得点〉 英語 89、生命科学 54、物理 82、化学 54、面接 54.2、1次 279、最終 333.2

〈勉強方法〉

働きながらの受験ということもあり、無駄を省いて効率よく勉強するためになるべく予備校を利用しました。平日は 2～3 時間。休日は 9～10 時間程度勉強していたと思います。勉強開始時点では、生命科学に関しては高校生物も知らず、化学に関しては有機と無機が高校レベルでした。勉強時間の比率は生命科学 50%、英語 20%、化学 20%、物理 5%、小論文・面接 5%ぐらいだと思います。

英語

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ① 予備校 | ③ TOEFL の読解対策、文法対策本数冊 |
| ② ターゲット 1900 | |

予備校中心。③は滋賀医科対策に使用しました。

生命科学

- | | |
|------------------|--------------------|
| ① 予備校 | ⑤ 『人体の構造と機能』(放送大学) |
| ② 『エッセンシャル細胞生物学』 | ⑥ 『生物Ⅰ、Ⅱの必修整理ノート』 |
| ③ 『分子生物学』(放送大学) | ⑦ 阪大過去問 7 年分 |
| ④ 『細胞生物学』(放送大学) | |

予備校中心。加えて②の重要と思われる記述や図をノートに写しながらまとめました。③～⑤はケーブルテレビで録画して聞きました。⑥は浜松医科や滋賀医科の対策に使用しました。

物理

- | | |
|------------|--------------|
| ① 予備校 | ③ 阪大過去問 7 年分 |
| ② チャート式新物理 | |

予備校の授業で大学教養レベルを勉強し、②で高校物理を確認しました。

化学

- | | |
|----------------------|----------------|
| ① 予備校 | ④ 『ハート基礎有機化学』 |
| ② 『化学・生命科学系のための物理化学』 | ⑤ 『ポイント有機化学演習』 |
| ③ 『ライフサイエンスの物理化学演習』 | ⑥ 『絶対わかる無機化学』 |
| | ⑦ 阪大過去問 7 年分 |

理論化学は主に①と③で勉強し、②は気になる分野のみ勉強しました。生命科学の勉強も兼ねて生命系に関連した問題を含んでいるものを使用しました。有機は①と⑤中心。無機は⑥を使って、出題歴のあるところのみ勉強しました。

小論文・面接

- | | |
|------------------|---------------------|
| ① 予備校 | ③ 就職や転職の面接対策本 4～5 冊 |
| ② 『小論文・面接の時事ネタ本』 | |

予備校中心。②や③は各大学の面接前に読みました。

（面接で聞かれた内容）

穏やかに淡々と進みました。普段あまり考えていなかったような質問もありました。

- ・医学部の志望動機、阪大の志望動機
- ・医学部に入る必要性
- ・医学や医療をよりよくするためのアイデアは何かありますか？
- ・医学の道に進むのだったらやっておけば良かったということは何かありますか？
- ・仕事で気の合わない人がいたらどう対応しますか？
- ・これまでどのようにして困難な課題を解決してきましたか？

〈滞在したホテル〉 1次：ホテル阪急エキスポパーク、2次：千里阪急ホテル

〈なぜ阪大か〉 物理や化学の配点が高いため。大阪は便利で気候的に住みやすいなため。

〈採点への印象〉 大体予想通りでしたが、物理はもっと良さそうな手ごたえでした。

〈学士入学全般について思うこと〉

複数の大学を併願できる点は良かったけど、各大学で試験科目や配点、出願書類がまるで違うので対応が大変でした。

〈入学後、思うこと〉

先生方は、ビデオを使うなどいろいろ工夫して授業されているように思います。毎回大量のプリントが配られたりもします。生活面では、車を少し走らせれば大抵の用事をすませることができるので、とても過ごしやすいところだと感じています。吹田キャンパス近辺は交通量も多すぎず快適です。

〈受験生へのメッセージ〉

焦らず日々前進していくことできっと道も開けていくと思います。ベストを尽くして頑張ってください！

6人目

〈受験回数〉 1回目

〈生年月日〉 1980年代半ば

〈性別〉 男

〈略歴〉 東大学部・院卒（機械系） 民間企業 2 年勤務
〈併願校〉 滋賀医大（1 次不合格）、筑波大（不合格）、北大（1 次合格・2 次辞退）、新潟大（1 次辞退）
〈得点〉 物理 81 点 化学 48 点 英語 97 点 生命科学 60 点 1 次計 286 点（2 位）
面接・小論文 58.3 点 2 次計 344.3 点（3 位）

〈勉強方法〉

○全般

基本的に自宅に引きこもって 1 人で勉強しました。諸事情により勉強期間は 2 ヶ月と時間がなかったので、毎日欠かさず 10～12 時間勉強しました。KALS には通いませんでした。KALS の教材を知り合いに貸してもらいました。

時間の関係上阪大 1 本狙いで勉強し、滋賀医大は編入試験の雰囲気をつかむために、筑波大は面接の練習をするために、北大は旅行がてら気分転換のために受験しました。阪大に落ちた際は、9 月上旬の新潟大の編入試験に向けて全力で取り組み、それもダメだった場合は一般受験を受けるつもりでした。

○英語

【参考書】

- ・英単語ターゲット 1900
- ・医学部受験の英単語（河合塾 SERIES）
- ・赤本 東京大学
- ・Nature と Nature ダイジェスト

【勉強方法】

英語に時間を割く余裕はほとんどありませんでした。最初の 1 ヶ月は勉強の空き時間に上記 2 冊の単語帳を読み、単語力の回復に努めました。その後滋賀医大を受験したのですが、あまりにも英文が読めなかったため、Nature の適当な記事を 2 日に 1 つ読み、Nature ダイジェストで訳を確認しました。試験 2 週間前から東大赤本を解き、問題演習を行いました。東大赤本はほとんどのタイプの受験英語問題を網羅しているので、問題演習に適していると思います。

○生命科学

【参考書】

- ・KALS 教材（要項集、完成編、実践編）

- ・ シンプル生理学
- ・ Essential 細胞生物学
- ・ 医学のための細胞生物学（南山堂）
- ・ 医学部編入への 生命科学演習

【勉強方法】

生物は高校時代に授業を受けたただけだったので、もっとも時間を割きました。まず、KALS 要項集を 2 周熟読し、わからないところをその他の参考書で調べ、ポイントをノートにまとめました。この作業に約 1 ヶ月費やしました。その後、KALS 完成編と実践編を 2 周解き、できなかった問題は更にもう一度解きました。「医学部編入への 生命科学演習」は時間切れでほとんど使えず、記述問題の答えをサラッと読んだだけです。なお、「医学のための細胞生物学」は個人的におすすめの参考書です。1 冊で編入試験のかなりの範囲をカバーしていて、レベルも阪大編入試験に適していると感じました。

○化学

【参考書】

- ・ アトキンス物理化学（上下）
- ・ 単位が取れる量子力学ノート（単位が取れるシリーズ）
- ・ 演習物理化学（セミナーライブラリ化学）
- ・ 基礎物理化学演習（三共出版）
- ・ 演習化学熱力学（セミナーライブラリ化学）
- ・ キーノート有機化学（東京化学同人）
- ・ 演習 有機化学（セミナーライブラリ化学）
- ・ 基本無機化学（サイエンス社）
- ・ 演習無機化学 基本から大学院入試まで（東京化学同人）

【勉強方法】

かけた時間の割りに点数が全然取れませんでした。他の方の勉強方法を参考にされた方がよいかと思います……。大学受験時は化学を選択していたものの、阪大の問題は大学教養範囲がほとんどを占め、過去問を見た限り、生命科学よりも厳しいと感じました。そのため、生物と同じくらい時間をかけました。

有機は簡単な参考書を読んで問題演習を行おうとしましたが、参考書が説明足らずでちんぷんかんぷんだったので、キーノート有機化学をみっちり読んだ上でサイエンス社の問題集を 2 周解きました。有機は入試問題の 5 割を占める一番重要な範囲なので、最初からもっと詳しい参考書を使用すべきだったと反省しています。その他、物理化学については、量子化学・化学熱

力学・統計力学などをかいつまんで勉強し、無機化学については錯体など一部の項目のみを勉強しました。

○物理

【参考書】

- ・物理のエッセンス上下
- ・理系なら知っておきたい物理の基本ノート 電磁気学編
- ・理系なら知っておきたい物理の基本ノート 物理数学編
- ・大学生なら知っておきたい物理の基本 力学編
- ・演習力学（セミナーライブラリ物理学（2））
- ・電磁気学演習（理工基礎 物理学演習ライブラリ）

【勉強方法】

大学受験時は物理選択で、最も得意な科目でした。そのため、基本的な事項を復習するだけとしました。試験1ヶ月前から勉強し、高校範囲については「物理のエッセンス」を数日でざっと眺め、忘れていた公式をリストアップして覚えるようにしました。大学範囲については「理系・大学生なら知っておきたいシリーズ」にて問題演習を行いました。サイエンス社の問題集も解こうとしましたが、時間切れでした。ここ数年の出題傾向を踏まえて大学範囲を学習するかどうか迷ったのですが、得点源の物理学での失敗は許されなかったので、念のために広く学習しておきました。

〈小論文・面接〉

【参考書】

- ①医学部の小論文（河合塾 SERIES）
- ②樋口裕一の小論文トレーニング
- ③医系小論文 最頻出論点 20[改訂版]（赤本ポケットシリーズ）

※小論文

②にて小論文の一般的な書き方を覚えました。③にて小論文や面接で問われやすいような題材の勉強をしました。①はほとんど使用しませんでした。また、志望動機を文章にまとめたりしました。本番の問題は、あなたが今まで学んだ学問の概要とそれをどのように医学に活かすか、日本と海外の医学の比較を交えながらと答えよ、というような内容でした。

※面接

過去に阪大で聞かれた質問を頒布会にてリストアップし、それに対する答え

をまとめました。そして KALS の面接対策を受講しました（KALS 生でなくとも受講できます）。また、知り合いの医者・友人・先輩・親族に模擬面接をしてもらいました。本番の面接官は 3 人で、自分と面接官の距離が離れていて、声が聞き取りにくかったです。基本的なことですが、大きな声で話すことが重要だと思います。

以下、質問された項目です。

- ・医学部を受けた理由（志望動機）
- ・高校時代に医学部を受けなかった理由
- ・今のあなたには何が不足していて、医学部で何を学びたいのか？
- ・大学時代の研究をわかりやすく説明せよ
- ・何科に行きたいのか？
- ・趣味は何か？
- ・リーダーシップを発揮した経験はあるか？
- ・どういう信念を持ってリーダーシップを発揮したか？
- ・小論文について、どういう経験からこのような文章を書いたのか？
- ・医学部受験していることは、会社には言っているのか？
- ・併願大学は？
- ・編入試験全滅したらどうするのか？
- ・気になった医療系のニュースはあるか？
- ・医療倫理について、例えばどういう問題に関心があるか？

〈滞在したホテル〉

阪急千里中央ホテルです。駅を降りてからホテルを探すのに少し苦労しました。大学まではバスではなくモノレールで行きました。

〈なぜ阪大か〉

- ・編入試験を行っている大学の中で最も名門である。
- ・試験が筆記重視と言われている。
- ・親しい先輩がいる。
- ・都会が良かった（阪大の立地自体は田舎ですが、梅田等が近いので素晴らしいです）
- ・頒布会から手軽に情報を入手できる。

〈採点への印象〉

筆記については、英語以外予想を下回りました。自分の勘違いの可能性もあ

りますが、少し厳しめだと思います。面接については、自分の点数が 50 点を上回ったことにびっくりしました。

〈学士入学全般について思うこと〉

定員が少なく、面接の比重が大きいと言われているので、非常に対策の立てづらい試験で、努力が確実に実るわけではないと感じました。絶対に医学部へ行きたい場合は、ほぼ純粋に学力が物を言う一般受験の準備も並行して行う方が良いと思いました。

〈入学後、思うこと〉

一般生と仲良くなれるのか？という不安もありましたが、問題なく仲良くなりました。部活にも入り、とても楽しい生活を送っています。

〈受験生へのメッセージ〉

自分は会社を辞め、背水の陣で編入試験に臨んだため、勉強中はとても不安な日々をすごしました。落ちたら自分はどうなるのか、なぜ自分だけがこんな辛い思いをしなければならないのか、と自暴自棄にもなりました。ですが、合格して周囲を見ると、私と同じような境遇だった方も多数いらっしゃいました。辛いのは自分だけじゃないと奮い立たせながら、どうか頑張ってください！

7人目

〈受験回数〉 1回

〈生まれた年〉

〈性別〉 男

〈略歴〉 慶應義塾大学人文社会学科文学部哲学専攻卒業

〈併願校〉 弘前大学 合格 滋賀医科大学 一次試験不合格

〈得点〉 英語：94 生命科学：66 物理学：52 化学：55 一次試験：267
二次試験：50 合計：317

〈勉強方法〉

全般：

学部時代から大学に通いつつ空き時間に高校の理数科目を総復習し、2011年の3月に卒業してからは1日16時間を目標に勉強していました。それに加えて毎日小一時間ほど音楽を聴きながらジョギングしてストレス発散し、6時間は睡眠をとっていました。受験勉強という長いタームでの勉強を考えると、これくらいが健康的に頑張れる限界だと思います。高校のころからずっと文系でしたので、数学をはじめとする理数系科目は高校1年生の範囲からやりなおしました。物理や化学で使う数学に関しては、わからない箇所だけチャート式などで勉強し、使いながら覚えていく感じでした。

使用した参考書・問題集、勉強法など・・・

英語：

- 1、過去問
- 2、Nature News and Views
- 3、医学部受験の英単語

どの科目もそうですが、最初に過去問を見て感じをつかむのが大切だと思います。

まず3を使い、空いた時間に一度ざっとやってみてわからなかった単語に印をつけ、そこだけを出るだけ高速で何回も回して覚えました。2は大学の図書館の電子ジャーナルリストを利用して、医学・生命科学関連のトピックのものに限定して印刷して暇なときに読んでいました。またわからない単語はチェックして単語帳にまとめて覚えるようにしました。News and Viewsは分量も長くなく、文章の構造も共通していて慣れると読みやすいので長文読解のスピードアップにも利用できると思います。内容も最新のものですし案外楽しめます。要約対策は、とくにしませんでした。とにかく早く正確に読むことをころがけていけばそれなりの点をとれると思います。

生命科学：

- 1、エッセンシャル細胞生物学
- 2、Molecular biology of the Cell
- 3、生化学事典（岩波）

- 4、医学を学ぶための生物学
- 5、解説が詳しい生物重要問題集生物1・2（旺文社）
- 6、チャート式生物
- 7、理系標準問題集生物（駿台文庫）
- 8、エッセンシャル免疫学
- 9、シンプル生理学
- 10、シンプル生化学

6を参考に、5や7で演習して高校生物を覚えました。その後、1の内容は全部覚えました。一般生もこの内容くらいは覚えるのでやっておいて損はないです。2は1の補足として用いました。3はわからない単語が出てきたときによく調べて使っていました。4は細胞生物学、分子生物学を医学や臨床的なことにつなげる知識を得るのにとても良いです。阪大の頻出領域は最低このテキストに乗っているレベルまで掘り下げたらある程度安心だと思います。9、10はざっと読みながら知識を整理しつつ、後々勉強しながらわからなくなったところで参照して使っていました。

物理学：

- 1、物理のエッセンス
- 2、新物理入門
- 3、新物理入門演習
- 4、基礎物理学演習Ⅰ・Ⅱ（サイエンス社）
- 5、単位が取れる力学
- 6、単位が取れる電磁気学
- 7、理系なら知っておきたい物理 力学
- 8、理系なら知っておきたい物理 電磁気学

1で高校生物を終わらせ、そのあと2で微積を使った物理を勉強しました。個人的には結構わからないところもあったのですが、教科書が理解できなくても3の問題集の基本例題をすべて解くことをまず目標にしました。問題を解きつつ、わからない数学の手法は高校数学の黄チャートや微積の本などを使って把握できるようにしました。微積は「単位が取れる」的な簡単本で勉強しました。本当にわからないところは理系の友達に教えてもらいました。あとは過去問で頻出トピックを中心に少し難しめの問題もやりました。4も一応力学と電磁気学、あとは熱力学の一部をやりました。今年は若干難化したように思います。

化学：

- 1、物理化学演習（岩波化学入門コース）
- 2、物理化学（岩波化学入門コース）
- 3、ポイント有機化学
- 4、マクマリー有機化学概説
- 5、化学重要問題集
- 6、演習物理化学（サイエンス社）
- 7、演習有機化学（サイエンス社）
- 8、単位が取れる量子化学
- 9、単位が取れる有機化学

5で化学の高校範囲をやりました。これをしっかりやっておくと大学で勉強する範囲の基礎になり、理解がはやいと思います。5をやったあとに、大学の範囲に移ります。有機化学で確実に点を確保することが大事だと思ったので、3、4、7あたりをやりました。4にのっている程度の反応を覚えていれば結構点がとれると思います。3や9も有機化学のイメージをつかむのに役立ちました。6は一応やりましたがあまり文系のかたや、まわりに相談できるひとがいらないとおすめできません（誤値・誤植が多い）

<小論文・面接>

面接で聞かれたこと：

- ・ 阪大を受験しようと決意した経緯
- ・ 自分に足りていない部分があるとしたらどんな部分か
- ・ なにかスポーツはやっているか
- ・ 集団作業で意見が対立したときどうやって解決するか
- ・ 卒論の内容
- ・ 落ちたらどうするか

3対1の面接です。質問に一つ一つ受け答えていく一問一答形式で、あまり会話になりづらい形の面接でした。随所に突っ込んで欲しいようなアピールポイントを入れてもあまりその点に関して深く突っ込んでくれず、反応が薄かったです。面接が終わったあとは、なんとなく不完全燃焼な気がしました。

<滞在したホテル> 新阪急ホテル

<なぜ阪大か>

- ・過去問が手に入ること
- ・得点開示をしてくれること
- ・頒布会の合格者データと実際の過去問を見て、合格最低ラインが思ったほど高くなかったこと
- ・学士編入全般を見据えると、阪大の学科合格を目標にしておく勉強の計画が立てやすいこと
(無意味に思える努力は人間あまり長続きしないと思う)

<採点への印象>

全般的に妥当だと思います。

英語に関してはもう少しとれていると思い込んでいました。

<学士入学全般について思うこと>

- ・面接重視の大学や、過去問や得点の開示がされない大学が大半で不透明性が高い
- ・慢性的な情報不足

<入学後、思うこと>

- ・勉強仲間がいるということが一番嬉しいです。

<受験生へのメッセージ>

文系だと不利だとか、出身大学が・・・云々、受験勉強中は色々とよくない憶測に不安になることも多いと思います。阪大の試験では学力さえつければきちんと合格できます。自分で過去問を見て、自分の感覚で「行ける」と思えたなら可能性はいくらでもあると思います。過去にどれだけ文系合格者がいたのかは確認していませんが、今回私が合格をいただいたことで、理系以外の様々なバックグラウンドを持った志願者が増えてくれたら嬉しい限りです。時間はかかるでしょうが、こつこつと自分の感覚を信じて頑張ってください。歓迎会でお会い出来るのを楽しみにしております。